

[ていねやまぐちばったづか]

手稲山口バッタ塚

バッタの大発生

現在の札幌市手稲区手稲山口は、明治15(1882)年に札幌区山口村として発足した地であり、うね^{※1}状に盛り土がされたバッタ塚がある。

バッタ塚とは、農作物に大きな被害を与えるバッタの大発生が起きた時、駆除したバッタや翌年のさらなる大発生を防ぐために、卵のう^{※2}を埋めてできた塚である。

バッタが大発生すると、空が暗くなるほどの大群となり、耕地や草地に降りるとあたり一面を食いつくしてしまうので、被害地の住民は深刻な飢きに陥る。

日本では明治13(1880)～18(1885)年に、開拓が始まって間もない北海道の十勝、日高、胆振、石狩、後志、桧山、渡島などにトノサマバッタが大発生したことが記録に残っており、手稲山口バッタ塚もこの大発生の時期に造られたものと言われてい

駆除に国費

明治政府は、北海道開拓に従事した人々に希望を失わせないため、また、被害が本州に及ぶことを防ぐために、毎年5万円もの国費をかけ(当時の金額では巨額)、捕殺したバッタや掘り取った卵のうを集め、各地にバッタ塚を造らせた。

札幌市手稲区のバッタ塚は、札幌近郊で集めた大量の成虫や卵のうをうね状に集積し、その両側から砂を20cm以上になるようにかけて埋めている。そのうねは当初100条あまりにもなったと伝えられているが、現存しているのはその一部である。

バッタ塚の土地は昭和42(1967)年に宅地会社から札幌市へ寄贈され、当時のバッタの被害や、防除にあたった人々の労苦を今に伝える貴重な文化財として、昭和53(1978)年に市指定史跡となった。



註(用語解説)

※1 うね：畑で、作物を栽培するために細長く直線状に土を盛り上げたもの。

※2 卵のう：泡につつまれた卵のかたまり。

概要 | 指定面積 941 m²

● 建築年代：明治16(1883)年

● 指定年月日：昭和53(1978)年8月21日

● 所在地：札幌市手稲区手稲山口 324-308

● お問い合わせ：札幌市文化財課 ☎ 211-2312

● 休館日：冬期間閉鎖(山口緑地の開放時間に同じ)

※緑地へのお問い合わせ

前田森林公園管理事務所 ☎ 681-3940

● 観覧料：無料

● アクセス：JRバス「山口」

